石丸文行堂

創業明治十六年、百四十年以上もの間、長崎の発展と共に成長し続ける石丸文行堂様。
今回は、社長 石丸忠直氏に、普段見えない石丸文行堂様の取り組みや展望を教えていただきました。

長崎の魅力を長崎の人に知ってもらう

長崎中心街の心臓だった旧県庁

2018 年の県庁移転から始まった長崎市の「100 年に一度の変革期」。西九州新幹線や長崎スタジアムシティの開業、駅前の再開発などを通じて、街は大きく変化を遂げています。県外から見ると非常に華やかで、人の往来も活発になったように思われますが、長崎市は訪問者数も宿泊者数もコロナ禍前のピークをまだ超えていないのが現状です。
かつては県庁を中心に約 4,000 人もの人々が放射線状に行き交い、街全体の心臓ポンプのような役割を果たしていました。
その県庁が駅側へ移転し、放置されたままの跡地は長崎市の中心繁華街と駅周辺エリアを小高い丘が分断する形となり、商店街・繁華街の衰退に影を落としています。現在は、まちなかの中心にぽっかりと穴が空いてしまったような状況です。
県庁跡地の活用については、県内外の人々が行き交い賑わいを生むよう、世論を喚起しながら、行政を動かすことが重要だと考えています。

魅力あふれる長崎

長崎市は人口減少の問題が非常に深刻です。意思がある人は外に出て、より可能性のある社会へと自らの活躍の場を移しています。一方で、地元に残る人の中には、十分な情報を得られないまま現状を嘆き、「長崎には何もない」と後ろ向きな言葉を口にする人も少なくありません。しかし私は、「何もないのではなく、知らないだけですよ」と伝えたいのです。
私は 18 年間東京で生活し、外から長崎を見てきました。その経験から、長崎が非常に魅力にあふれた街であり、県外からの好感度が高いことを実感しています。
反対に、長崎しか知らない人たちはその魅力に気付いていないように感じますので、まずは、この意識の根本を変える機会を作りたいと考えています。
数年前、創業者がこの商店街組織をつくったという史実を知ったことは、ここから逃げるわけにはいかないという覚悟につながりました。地元・長崎の活性化に取り組むことで街を良くし、同時に自分たちの事業も成り立たせていく。地元愛に溢れた人が前向きな空気を生み、その中で子どもたちが育ち、やがてまたこの街を好きになる。そうした好循環の推進に寄与していきたいと感じています。

「文房具屋」という枠を超えて

2023 年、創業 140 周年時に経営理念を刷新しパーパスを制定しました。
「石丸文行堂は文房具屋」という固定観念をやめようと宣言し、まず取り組んだのが酒類販売免許の取得でした。長崎には多様で魅力的なお酒が次々に誕生していますが、まちなかには積極的な酒屋さんがないため、感度が高い都会へ流れている現状があります。
長崎を盛り上げようと努力している作り手がいる。その存在や思いを伝えることが、私たちの役割ではないか。県内の離島や半島の作り手が生み出した酒や食品を、私たち売り手が間に入ることで、地元の使い手へ紹介し魅力を味わっていただく。その橋渡しを、自社の商品や取り組みを通じて少しでも実現できればと考え販売免許を取得しました。

みんなで生きていこう

本店 1 階の「長崎マルシェ Jimo（ジーモ）」は、一見すると土産物店のようですが、長崎の人にこそ長崎でつくられたものを使ってほしいという思いから運営しています。長崎には魅力的な生産者や特産品が数多く存在します。まずはその存在や価値を、地元長崎の人に知ってもらうことが目的です。
販売店は、作り手と消費者をつなぐ役割を担っています。売れるから売るのではなく、物語があり、手間と愛情のこもった商品の物語を丁寧に伝えていく努力が必要だと考えています。
正直なところ、この事業は大きな利益を生むものではありません。しかし、ここで生まれたご縁をきっかけに、生産者の方々へアドバイザーとして関わっていきたいと考えています。

GOOD LIFESTYLE BY ISHIMARU

パッケージの改善や生産性向上の工夫など、流通に乗せるための支援を行い、特に離島の生産者が多い中で、「みんなで生きていく」仕組みづくりに貢献したいと考えています。

長崎の活性化と本業を一体で考える

毎年７月に出島メッセで開催している「ごほうびフェスタ」は、「文房具ってやっぱり楽しいね」「面白い」と改めて感じてもらうことを目的としたイベントです。
それに加えて、Jimo の縁でつながった長崎県内の食や雑貨の作り手さんが集まって、来場者も出展者もみんなで楽しむ雰囲気の中で開催しています。行政、それに学校もオープンスクールを兼ねて参加しています。
実は、長崎の活性化と自社の本業を一体のものとして捉え、長崎をテーマにした商品の自社開発にも取り組んでいます。
私たちは「書く」という行為にまつわる商品を扱っているため、国内外で開催されている“手書き”を愛する人々が集まるイベントに出展し、会社を知ってもらい、同時に長崎の魅力も発信するのです。
手書き文化において、日本は世界でも先頭を走っています。イベントへの出展を通じて接点が生まれ、購入者には楽しかった余韻と商品が残り、それが SNS を介して広がり、増幅していきます。翌年のイベントでは大きな集客につながり、それを見た現地の販売店から取り扱いのオファーを受ける。販売店から購入した人が長崎へ観光に来る。そうした循環を目指しています。

世代を超えたつながり

本店 5 階奥に設けた『ぶんちゃんランド』は、「子どもを安心して連れて行ける場所を浜町につくりたい」という思いから生まれました。子どもが「また行きたい」と言うから浜町へ来た、買い物中に子どもがぐずったので立ち寄った、という声を多くいただいています。
接点は、できるだけ幼い頃につくることが大切です。それは、一生のお付き合いをしたいからです。人口が減っていく小さな社会だからこそ、一人ひとりとどれだけ深い関係を築けるかが重要になります。
ぶんちゃんランドの導線上にはランドセル売場があり、購入時には「ランドセルパスポート」をお渡ししています。小学校 6 年間、文具代を割引する仕組みです。また、中学生以上の学生には登録制の学割サービスを提供しています。最終的には、その子が親になったとき、またお子さまを連れて来店していただけるサイクルをつくりたいと考えています。
将来的には、アプリ会員向けに AI を活用し、購買履歴からお客様の嗜好を理解した上で商品を提案していきたいと考えています。「ここまで自分のことを理解してくれている」と感じていただける体験を提供できれば理想です。

より良い未来を応援し合える社会へ

「長崎っていいよね」「長崎で将来こんなことをしたい」と、人々が前向きに自分の未来を語り、それを周囲が自然に応援できる社会。それが私たちの理想です。すべての人の活動に対して、私たちが何かを提案することで、その到達点を少しでも高める存在でありたいと考えています。
仕事や勉強においても、考え方や提案次第で楽しさが生まれ、結果につながります。そうした前向きな変化を後押しできる存在になることが、私たちのパーパス（存在意義）です。

代表取締役社長
石丸　忠直 氏

石丸文行堂
ホームページ

GOOD LIFESTYLE BY ISHIMARU
石丸文行堂
〒850-0853 長崎県長崎市浜町 8-32
TEL：095-828-0140